

## 栗塚古墳

方墳の栗塚古墳は、応神天皇陵のすぐ東にある。応神天皇陵の陪塚と考えられている。考古学者の多くは 2 つの古墳は同じ時期に築造され、並行軸上に配置されており、一時期は埴輪と呼ばれる素焼きの焼き物で区切られた境界線を共有していたため関連があると考えている。

完全に発掘することは宮内庁によって許されていないものの、1988 年に古墳の南側と西側の部分的な発掘が行われた。この発掘により、この古墳の原型は上部層と傾斜した直線の側面を持つ二段築成の方墳であったことがわかった。墳丘斜面にはこぶし大の葺石（ふきいし）が葺かれており、外堤は、埴輪列が取り囲む。

栗塚古墳は高さ 15 メートルで面積はおよそ 0.11 ヘクタールである。